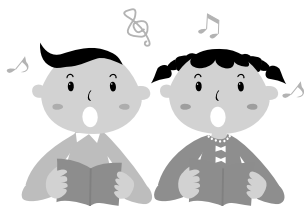


# かがやき

— 創 造 —

編集：中央区教育委員会

☎3546—9598



子  
ど  
も  
の  
詩

なんだか くやしい

有馬小学校 五年

猪俣 沙織

弟と

走って競走をした

弟は

わたしよりも速い

はじめの方は勝っていたけど  
だんだん追いつかれて

やっぱり最後は  
ぬかされた

なんだか

くやしいなあ……



女優の真屋順子さんが久しぶりにテレビに出演していただきました。かつてテレビの「欽どんシリーズ」で欽ちゃんの奥さん役で活躍していた人です。明るく、快活で、優しさをもった奥さんとして人気者でした。この真屋順子さんが、最近テレビに出ていないと思っていたら、脳溢血で倒れ一年九か月、闘病生活をしていたようです。現在、病状は良くなったものの、両足が不随となり車椅子での生活を送っておられます。俳優であり演出家であるご主人の高津住男さんが、車椅子を押しての協力生活です。華やかで多くの人の注視の中で俳優生活であっただけに、長い闘病生活は苦しく辛かったことと思われます。車椅子に頼らなければならない病状であるため、俳優に復帰することとは難しく、あきらめていたようです。その真屋順子さんが、一年九か月ぶりにテレビの画面に登場されたのです。登場したのは、長野県松本市で行われたコンサートの間における朗読でした。

下半身の不自由な真屋順子さんにとって、激しく動く俳優の仕事は無理であるが、言葉によ

る朗読ならば仕事が続けられると考えたのです。体が不自由だからといって家に引きこもるのではなく、積極的に多くの人とかわり、自分の願いや思いを実現しようという朗読の仕事を求めたわけです。そして、遠隔地の松本市まで出掛け、舞台上に上がって朗読を始めました。静かに、そして、大きく、透き通る声で朗読は続けられました。本気で懸命に朗読している真屋順子さんの姿を見て会場はシーン

## 本気でやる子どもの顔は美しい

元東華小学校・幼稚園長  
前跡見学園女子大学教授

西村文男

と静まり返り、観客の目と耳は舞台にくぎづけになりました。

本気で朗読している真屋順子さんの顔は、実に美しく映えていました。「本気でやる人の顔は美しい」わたしの実感です。朗読が終わったとたん大きな拍手が起こりしばらくは鳴り止みませんでした。真屋順子さんの朗読のすばらしさはもちろんのこと本気と美しい顔を見せた真屋順子さんへの称賛の拍手だったのです。これを受けた真屋順子さ

んも顔、体から嬉しさが溢れていました。拍手が鳴り終わったとき、真屋順子さんは立ち上がり一礼をした後、車椅子から離れて杖をついて歩き始めました。感激のあまりに、自分の足で幕間に入っていくことにチャレンジしたのです。ゆっくりと懸命に歩いておられる真屋順子さんに感動した観客はさらに大きな拍手を送りました。真屋順子さんの本気、美しい顔、チャレンジと、それを支える観客の

熱い応援の姿に思わず目頭が熱くなりました。そして、「美しい顔を見せた真屋順子さんは本気で生きている！」と感じました。突然襲った病気に主体的に対応し、自分でできる範囲内での努力、チャレンジをし、自分の夢や願いを実現しようとしている姿に美しさと生きる人間を見たのです。

今、第三次教育改革が進行中です。明治五年の学制発布、昭和二十二年の六・三制発足以上

の大きな教育改革です。学校及び学校教育の存亡を賭けた教育改革です。学校五日制や「総合的な学習の時間」の設置など教育制度の改革を始め、教育理念、学習内容、指導方法などを含めた極めて大規模な教育改革の実施です。この教育改革の基本的な理念になっているのが「生きる子どもの育成」です。多様で変化に富んだ時代を主体的に生き、自己実現し、チャレンジして、未来を創造する子どもを育てることです。これらは「何事も本気でやる」ことであり、そして、「美しい顔を見せる」ことであると思っています。真屋順子さんのように、人生を本気で生き、自分でできる範囲内で自己実現し、かわりを大切に、何事にもチャレンジして、新しい生活を創造していく子どもの育成に努めることが大切です。

「人間とは何か」「生きるとはどういうことか」を根本的に、そして、具体的に子どもたちに考えさせ、本気で努力し美しい顔を見せて生きていくことの大切さを感じさせたいものです。本来、人間と他の動物や植物との違いは、自己実現し、チャレンジし、新しい生活を創造していく「主体と受け身」の違いにあると思います。日光の猿軍団にしても、水族館のイルカにしても、人間がびっくりするような高度の芸を見せてくれます。しかし、これらの芸は調教する人間による厳しい訓練があつてこそであり、耐えて耐えて身に付けた芸です。そのこと自体は立派なことであり、称賛されるものであるにしても、猿やイルカ自身の発想や考えによって生まれたものではありません。新しい創造はありません。しかし、人間は、生まれたばかりの赤ちゃんや幼児であっても、自分の意志や発想で善さを求め、自分の力で自分を向上させ、新しい生活を創っていくことに本気で取り組み美しい顔を見せてくれます。第三次教育改革の求めた子ども像は、人間として生きる子どもであり、具体的には、それぞれの子どもの性格や能力などに応じて、自己実現し、チャレンジし、新しさの創造に本気で取り組み、美しい顔で努力する子どもです。

「本気でやる子どもは、本気でやる大人によって生まれる」ことを認識し、新しい教育を推進していきたいものです。

## 地域の先生の協力を得て 機織りの体験

京橋朝海幼稚園

本園では、特色ある教育活動として地域の様々なゲストティチャーを迎え、手話教室・盲導犬との出会い・アイマスク体験などを実践しています。

その中でも機織りの体験は、今年で三年目となります。地域在住の機織りの先生が「物を創る喜びにまざるロマンはない」「ロマンを感じる子どもを育てたい」という思いで、本園の指導をしてくださっています。毎年、七夕の織り姫の話をきっかけに、この活動が始まります。

子どもたちは、今まで絵本の中でしか出会わなかった機織りを目の前にして、糸から布が織りあがっていく様子に目を輝かせます。

三歳児は、機織りの様子を見て楽しみ、四歳児は、先生と一緒に機織り機に触れることを喜び、五歳児になると、一人で織

れるようになっていく喜びを味わっています。修了までに、一人ずつ小さなタペストリーを製作する予定です。

この活動は参観日に保護者に紹介しています。教師や保護者は、静かに物を創り出す子どもの姿を見ることができ、ゆつたりと心を落ち着かせることができます。機織りの活動は、幼児だけでなく大人にとっても貴重な体験となっています。



## 姿勢指導

明石小学校

今、子どもたちの生活の中の姿勢に関することが問題になっています。

学習時に、頬杖をついている

子や背もたれにもたれかかっている子、背中が完全に丸くなっている子、中には机にうつ伏せしてしまう子もいます。

これは、筋力の低下はもとより、がまんしてよい姿勢をとうとする気力にも原因があると考えられます。また、家庭で、寝転がってテレビを見るなどの習慣が身に付き、上体をまっすぐに保つことが持続しにくい状態になってきています。

正しい姿勢を保って学習することは、学習の効率を上げると共に子どもたちに強い精神力を養い、内臓の働きをよくする上でも重要です。

本校では、毎月一回、養護教諭が中心となり、朝の学活の時間を使って「姿勢指導」を行っています。

年間指導計画によって、毎月養護教諭が各クラスを回り、子どもたちに「よい姿勢」について指導を徹底させるよう取り組んでいます。2学期には、子ども一人ひとりの背中の様子を写真に撮り、各自に自分の姿勢について考察させました。

この指導には、時間がかかります。家庭の協力を得ながら、根気よく続けてまいります。

## Let's Speak English

銀座中学校

本校では今年度から個に応じた教育を目指し、選択教科の授業の充実にあります。その中で最も特色のあるのが英語の選択授業です。

英語科は今、教師二名、講師一名、常勤の外国人講師一名で必修の授業を行っています。それに加えて選択授業では、二年生二時間、三年生三時間、外国人留学生二名に、毎回指導に来てもらっています。習熟度に応じたコース制にして、合計六名の指導者がコースに別れて授業を行っています。



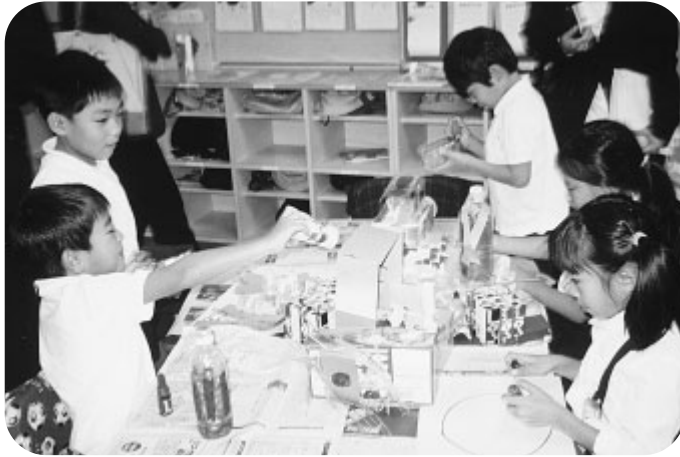
コース制のうち、二コースはスピーキング主体の授業で、六八名に一人の指導者がついて英語のみでの授業になります。少人数ですから一人が話す機会も多く会話の能力に伸長が見られるようになっていきます。

留学生の二名は中国とインド国籍の方です。この二名は固定しないで、各グループに参加してもらっています。それは単に英会話の学習だけではなく、会話を通じた国際理解、英語の学び方を学ぶこと、そして何よりも学ぶことへの意欲を感じ取って欲しいと願っているからです。

今、日本の青少年の学習意欲の低下が言われています。このような出会いから、意欲を引き出していただくと願っています。







▲研究発表会 10/24 (佃島小)



▲道徳授業地区公開講座 10/29 (城東小)



▲開校130周年・開園60周年記念式典 11/2 (久松小・幼)



▲65周年記念大運動会 10/27 (宇佐美学園)



▲開校・開園10周年記念式典 11/16 (京橋築地小・京橋朝海幼)



▲研究発表会 11/8 (銀座中)



当日は、共に活動されている皆様と、カンボジアでのボランティア活動を中心に、児童の質問を受けながら、熱っぽく、わかりやすくお話されました。

十一月二十日、パルセロナ・アトラクタのオリンピックで、銀・銅に輝いたマラソンランナーの有森裕子さんをお招きして、ボランティア活動についてのお話を聞く会を開きました。

有森裕子さんを招いての  
国際理解教室  
月島第二小学校

幼稚園  
校トピックス



▲開校130周年・開園107周年記念式典 11/30 (常盤小・幼)



▲研究発表会 11/19 (有馬小)



▲田中カレンさんによる音楽科特別指導 12/2.10 (阪本小)



▲フェスティバル明石ギャラリー 11/24~26 (明石小・幼)



▲東根市果樹研究連合会よりリンゴのプレゼント 12/10 (明正幼)



▲研究発表会 12/6 (泰明小)



地域の歴史を守り、伝え、郷土を愛する心を育てる特色ある教育活動として、佃島小にとっては他校には見られない大切な行事となっております。

およそ四〇〇年前、徳川幕府が開かれた頃、摂津西成郡田村から招かれた三十三名の漁師さんたちが、佃を開いたということとで深いつながりがあります。

この縁で、昭和四十年、第一回の交歓会が行われて以来、今年で三十八回になります。

## 大阪個小との交歓会

佃島小学校

十一月三十日、大阪市立佃島小学校から、児童、教職員、地域の方々、PTA役員の方々をお迎えして今年も交歓会が行われました。



## 環境問題に取り組んでいます 教育委員会事務局庶務課

## ① ISO14001の取り組み

今、地球温暖化をはじめ、自動車公害、酸性雨、オゾン層の破壊などの環境問題が日常的に話題になっています。こうした環境問題は、今までの公害問題とは異なり、わたしたちの日常生活を含め、全ての活動の積み重ねによって、自覚のないうちに、進行していき、子どもたちや後の世代にも大きな影響を与えることとなります。

平成十三年から区役所では、地域の核として率先して環境問題に取り組むために、区役所の本庁舎など4施設を対象に、区長が「中央区環境方針」を定め、ISO14001の認証取得に向けた取り組みを進め、昨年十一月二十七日に取得しました。

## ② 学校での環境教育

環境問題に対する意識を高めるために、学校における環境教育の果たす役割は、大変大きいものがあります。環境教育は、子どもが水や緑などの自然と触れ合うことや物を大切にする心を育てることから始まります。

従来から、各小中学校では、クリーンデーにおける地域清掃の実施、アルミ缶の回収、各教室にリサイクルボックスを置きゴミの分別を行うリサイクル活動、古切手や使用済みテレホンカードの回収など積極的に環境問題に取り組んできました。

また、総合的な学習の時間では、隅田川に子どもたちが自分の手で草を植える活動や、環境を守るために自分たちができる

## 中央区環境方針(抄)

(基本方針)

- 1 区は、環境保全施策を積極的にすすめます。
- 2 区の事務事業の実施に際しては、常に環境に配慮し、環境負荷の低減を図ります。とくに省エネルギー、省資源、ごみの減量および大気汚染の防止については、重点的に取り組みます。
- 3 区民および事業者に対し、環境に対する取組を積極的に働きかけます。
- 4 環境法令等を守り、環境汚染の予防に努めます。
- 5 環境方針を達成するため、環境目的および環境目標を設定するとともに、その見直しを行い、継続的な改善を図ります。
- 6 環境方針は職員に周知徹底し、また広く一般に公表します。

平成14年1月4日

中央区長

矢田美華

ことを調べ、実践をとおして考える活動などに取り組んでいます。今後、各学校においては、

環境から学ぶ・環境について学ぶ・環境のために学ぶという視点に立った地球環境の保全やよい環境の創造をすすめることができる人材の育成を目指した教育を進めていきます。

## ③ 家庭での環境教育

環境問題は、地球全体にかかわる問題です。また、全ての人が被害者であると同時に、加害者にもなりえます。環境問題を解決していくためには、一人ひとりが日常の生活の中で環境への配慮をしていくことが不可欠です。ご家庭でも、身近なところから環境問題について話し合い、環境問題に取り組んでみてはいかがでしょうか？

## ISO14001

ISO14001とは、環境負荷の低減を図るための仕組みの国際標準規格です。事業所が、ゴミ減量、省エネルギー、大気汚染の防止などの環境を改善するための「目標」を立て、それを「実行」し、さらにはその状況を「点検」し、問題点の「見直し」を行います。このサイクルをくり返し、継続的に改善を図っていくことです。

## 教育委員会の動き

十一月の定例会では、中央区立幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部改正、中央区スポーツ振興審議会への諮問について審議・可決された他、中央区成人の日記念式典「新成人のつどい」の実施「中央区子どもフェスティバル」の実施結果等について報告されました。

十二月の定例会では、中央区

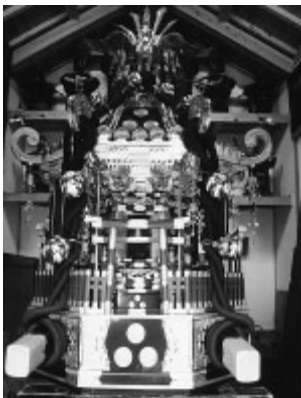
立幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則の一部改正、中央区立幼稚園教育職員の初任給、昇格及び昇給等に関する規則の一部改正、中央区文化財保護審議会への諮問について審議・可決された他、中央教育審議会「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」(中間報告、平成十五年度幼稚園応募状況、完全学校週五日制に関するアンケート調査結果等について報告されました。

## 中央区文化財シリーズ⑦

## 住吉神社神輿

所在地 佃二ノノ十四  
住吉神社

八角形造の神輿で、芝大門通りの万屋利兵衛製作、天保九年(一八三八)に納品されたことが住吉神社文書にあります。高御座を擬したと伝承のある八角形は関東地方では珍しく、また製作にあたっては、内側も漆塗とし、さらに内部に水が入り込まないよう部



材の気密性を高めるなど、例大祭に行われた海中渡御のための注意がはらわれています。地域住民に大切に扱われ、天保年間から現在まで用いられております。製作年・製作者のわかる貴重な神輿です。

## 教育随想

### 教職生活を振り返って

常盤小学校長  
常盤幼稚園長  
生越詔二

学習指導については新卒以来、教科書や研修会で学んだことを自分なりに実際の授業に生かすようにしてきたつもりですが、今振り返ってみると、先輩同僚の授業の参観や、研究授業を何回も行ったこと、子どもの自己評価などから授業の技術や方法・手だてを学んだことのほうが大きかったと思っています。

先輩の授業の参観をしつこく頼みこんだこと、研究発表校の授業をそのまま行おうとして失敗したこと、予想した授業展開ができなくて混乱したことなどが今でも反省点です。

教育は実態に即して行うことを強く感じたのは、校内研修で大脳生理学の講義を受けたことがきっかけでした。

人間の赤ちゃんの脳細胞の数と大人の脳細胞はほとんど同じであること、赤ちゃんは生後、目や耳、皮膚などからいろいろな刺激を受け自分もっている

脳のネットワークの機能を完全な形に改良していくプロセスを経ること、このプロセスには臨界期があること、シナプスの連接部での伝達は促進が六割で抑制は四割であることなどを知ったことは新鮮な驚きでした。

「三つ子の魂百まで」「雀百まで踊りを忘れず」や「しつけ」は繰り返し一貫性をもって行うことを確信することができたと思っています。また、脳は新しいことを知ったがついているということから、興味・関心に基づく動機付けが学習にとって欠くべからざるものであることにも確信できたように思います。

最近の研究によれば、知性を扱う脳の部分を十分発達させるには、知性と感性の両方を発達させなければ、知性そのものが機能しないということが分かってきたということです。

教育は多くの先人の経験則や知恵、各種学問のデータの集大成の下で行われています。いわゆる発達段階に応じた内容が学習指導要領などに示されているわけですが、脳科学の知見に基づいて定められているわけではありません。将来はこうした面からの検討がなされる可能性があります。

あると思っています。

実態という面では、子どもの発達についての知見を得ることが関心事で、この観点からは発達課題という考え方が多くを学びました。発達課題をクリアすることがよりよい人格を形成するという考え方はとても参考になりました。

成長のプロセスで、基本的な信頼感の獲得や自発性・活動性などを保障することが大切であるとしています。このことから、家庭・地域・学校が連携して教育に当たること、子ども同士や子どもと教師の人間関係を豊かにすることなど、ごく当たり前のことが当たり前に行われることの重要性の根拠が得られたと思っています。



## 我が家のニュース

### 我が家は大家族！！

明石小学校PTA

森谷 愛

こんにちは。私の家族は祖父、祖母、父、母、小六小二の妹と中三の私の七人、そして三匹の猫たちと一緒に暮らしている大家族です。私の家は、築地市場で中卸を営んでいるため、午前三時には家を出て働いています。

四月から、母もいっしょに仕事に行っているため朝は、私と妹達で学校へ行きます。最初のうちはいろいろ大変でしたが、今では慣れ自分のやるべき事をやり、いろいろな事に対して三人で協力したり、助け合う機会が以前より増えました。又、

私達家族はとても仲が良く、夏休み、お正月には家族で毎年旅行に必ず行きます。私は友達と遊ぶ事も好きですが、やっぱり家族みんなで旅行に行くのも大好きなので、一緒に行ける時です。ずっと続けたいと思っています。



これが我が家の生活スタイルですが、みんなが仲良く、楽しく過ごすために、みんなで心掛けている事があります。それは、健康である事、すべての事に感謝と思いやりの心を忘れない事、時間を大切にすること、一生懸命努力すること、どの言葉も本当に大切なことで、家族の中だけではなく、友達同士、学校の生活どこでも、通じる事に思えます。いつも何かある度にどの言葉かがあてはまります。これからも大切に心掛けていこうと思います。

私から見た大家族は、忙しくて、大変なことも多いけれど、家族が多い分、良いこと、楽しいこと、学ぶことも多いので、毎日が充実しています。



## 一 研究主題の考え方

本校は、平成十三・十四年度  
文部科学省環境教育推進モデル  
市町村指定事業実践協力校、中  
央区教育委員会研究奨励校とし  
て、教科・領域・総合的な学習の  
時間を通して、これからの環境  
教育のあり方について、地域・家  
庭、関係機関との連携のもとに  
研究を進めてきました。そして、

## 学校からのレポート

## きらきら輝け、子どもたち

「創ろう環境」「磨こう感性」

## 泰明小学校

教諭 田 辺 泰 典

の実践を通して、「常に前向き  
で、困難に対して自ら克服して  
いこうとするエネルギーに満ち  
た子ども」発信型の子どもを  
育てたいと考えました。「子ども  
が輝く」とは、課題を追究しなが  
ら、自分のよさや可能性を内か  
ら外に向かって発信していける  
子どもにとらえました。また、「  
授業の創造」とは、人とかか

生きる  
力の具  
現化を  
目指し、  
研究主  
題を、子  
どもが  
輝く授  
業の創  
造と  
し、環  
境教育

わりを重視した課題解決的、弾  
力的な授業を子どもと共に創る  
ことを意味しています。

## 二 研究の概要

環境教育を通して育てたい子  
ども像実現のために、「守る環  
境から「創ろう環境」「磨こう  
感性」を柱とする都会の学校に  
おける環境教育をどう進めたら  
よいかを模索していきました。

また、環境教育を進めていく上  
でのエリアを「自然的な環境」  
「社会的・文化的な環境」とし、  
教科・領域・総合的な学習の時  
間を通して実践してきました。  
そして、次の三つの柱を設定し、  
研究主題達成に向けて取り組み  
ました。

①主体性Ⅱ「共に生きる」をキー  
ワードとし、「感性」課題解決の



意欲「興味・関心」「自分のよさ・  
可能性の発見」の充実を図る。

②学び方Ⅱ「行動の方法を学ぶ」  
をキーワードとし、「検証能力」  
「理解」の充実を図る。

③かかわり合いⅡ「共に学ぶ」  
をキーワードとし、「共存・共生」  
「行動力・実践力」の充実を図る。

そして、この三つの柱を支え  
るものとして、「体験の重視」「多  
様な場・地域との連携」「保護者・  
地域の方々の授業参加」「活動目  
的の明確化」に努めていきました。

また、「授業づくりと実践」(単  
元開発、感性を磨く学習過程づ  
くり、カリキュラムづくり、学  
習の進め方づくり)「活動の日常  
化」(エコ活動、エコ目標、泰明  
子どもきらきら社会、評価の内  
容・方法)「環境づくりの取り組  
み」(花壇の手入れ、庭園の利用、  
メダカ・柳、学習環境の整備)

「家庭・地域への拡大」(授業・  
活動への参加、他校・地域への  
発信)に取り組みました。

## 三 研究会当日

平成十四年十二月六日(金)、  
研究発表会を行いました。当日  
は、多くの参加者があり、子ど  
もたちがきらきら輝く「環境教  
育」の授業を展開することがで  
きました。

## 当日の授業

- 一年 「げんきなちゅうをつくらう」
- 二年 「秋の実りをいわおう」
- 三年 「銀座のクラス」
- 四年 「エコ自慢大会」
- 五年 「創ろう環境 私たちの手で」
- 六年 「めざせ、エコキッズ」

## 四 研究の成果と今後の課題

成果としては、第一に子ども  
たちが環境問題に自主的・自発  
的に取り組むようになったこと  
と、第二に子どもの学び方が変  
化し、調べて終わるのではなく、  
実際に検証しながらよりよい活  
動を求めていくようになったこと  
と、第三に地域・家庭に活動を  
拡げていく姿がみられるように  
なったことが挙げられます。  
残された課題としては、日常  
的な取り組みをいかに継続して  
いくことができるかということです。

## 編集後記

○あけましておめでとうござい  
ます。  
○研究発表会や周年行事等で、  
地域・PTAの方々の協力を得  
て、その学校の特色ある教育活  
動が展開されています。個々の  
児童が、ひたむきに課題を解決  
するために頑張っている様子に  
接する度に、大きな感銘を受け  
ているこの頃です。

## 子ども電話相談

♥つらいこと、こまったこと、ひとりで  
なやまず相談ください。

- ◆中央区立教育センター 3545-9203  
月～金 9:00～17:00
- ◆東京都教育相談センター 3493-8008  
月～金 9:00～22:00  
土・日・祝 9:00～22:00
- ◆東京都児童相談センター 3202-4152  
月～金 9:00～20:30  
土・日・祝 9:00～17:00

教育広報「かがやき」で  
は、皆様の声をお待ちして  
います。

ご意見やご感想などがあ  
りましたら、どしどしお寄  
せください。

中央区教育委員会事務局庶務課  
〒104-8404 中央区築地一ー一  
☎(三五四六) 九五九八

教育広報「かがやき」は再生紙を使っています。